

教育センター学びの丘研修員における学びについて

古座川町立明神中学校

教諭 仲 本 裕 一

和歌山県教育センター学びの丘における研修員として研究と修養を重ね、教育に関する専門的・技術的な事柄についての理解及び教員としての資質・能力の向上を目指してきた。その1年間の学びについて述べる。

修養では、初任者研修やミドルリーダー育成研修等の受講を通して、教育理論について見識を深め、ミドルリーダーとして今後に生かす学びを得ることができた。また、多様なキャリアをもつ受講者と関わり、協働することの大切さを学んだ。中堅教員として学校を支える役割を担いつつ、初任者や若手教員の教職に対する手本となれるよう今後も修養に努めたい。

研究では、これまでの自身の授業実践を省察し、生徒が自ら学びに向かう社会科の授業づくりを目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について研究した。手立てや単元計画等を考える中で、生徒が自ら学びに向かうためには、きめ細かな指導の工夫や、生徒一人一人の考えや発言を大切にし、生徒が安心して授業に取り組むことができる環境整備が必要であると実感した。

今後も、生徒が自ら学びに向かう社会科の授業実現を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が実現できるよう、単元及び授業づくりの研究を続けたい。そして、研修で学んだことを所属校や地域の学校に還元するとともに、今後も教員として研鑽を続けていきたい。